

自然に「小さな試み＝小さな学習活動」を醸成し、持続させる雰囲気づくり

吉川 榮和

現場は何をしているのか、いつも疑いを持ってしきりに報告させる、このようにしなさい、あのようにしなさい、とやかましく周囲から寄ってたかって指図する。これでは現場からの内発はありえない。むしろ、現場のことは現場の人が一番知っているべきだし、知っていることを誇りにすることが大事である。

サブテーマ「内発的データベース」のメンバーたちは、自分の研究しようとするサブジェクトをどのように考え、それをどのように現場に持っていくのだろうか？またそれをどう試すだろうか？ もちろんそれは各メンバー自身が新たなアイデアを提起し、それをマイクロワールドで実験して効果がありますよ、でも結構だが、それは社会的構成主義に立脚する人間科学のアプローチには悖るようである。

現場に自分が足を運んで、一緒に仲間として仕事をしていき、その毎日の付き合いの中で、仕事仲間からリーダーとして一目を置かれるようになると、こういうことをやってみよう、と提案して受け入れられ、一緒にやっていくことができる。これが現場研究の理想である。杉万先生は、そのように言う。また脱構築の学習活動とは「小さな試み＝小さな学習活動」の仲間内での積み重ねで知らないうちにそうなっていた、ということのようである。

サブテーマの各メンバーには、自然に「小さな試み＝小さな学習活動」を醸成する内発的データベースに資する数々のアイデアを考案いただくとしても、①現場が受け入れてひとつやってみようか、と前向きに対応いただけそうなものを創出して欲しい。また、②それらのアイデアあるいはそれを活かすための組織活動のソフトシステムを提起し、③さらに小さな学習活動のためのツールとして内発的データベースの効果を実証するため現場で共同の実験的取り組みへ、と発展することを期待している。

さて現場の人々の内発を醸成するツールの創生を、ヒューマンインタフェース(HI)設計の観点で検討する。従来現場のヒューマンファクタ分析では、ヒューマンエラーを起こさせない、作業負担を掛けない、などの人間性能形成因子 (PSF) が重視された。岡田 (慶応大) によれば、前述のような PSF を悪玉 PSF として退治すれば OK というよりは、人をやる気にさせる、快適にさせるといった善玉 PSF をこれからの HI に推奨している。岡田はそのような善玉 PSF を快適性形成要因 (Comfort Shaping Factor :CSF) と呼んで、以下のようなものをあげている。

①アフォーダンス、②思考のしやすさ、③行動のしやすさ、④感覚、⑤ゆとり、⑥体との適合感、⑦その他のプラスイメージ。内発データベースの検討では、このような面でも現場の声を取り入れる試みが必要かもしれない。

最後に NUCIA の情報提示について付言する。筆者が担当している京大エネルギー科学研究科修士課程科目「システム安全学」の講義の一環で、学生さんたちに NUCIA と JST 失敗知識データベースとを閲覧してもらい、NUCIA に対する感想を寄せてもらった。以下はその主な意見である。

- ① NUCIA は検索機能が不十分である。キーワード検索のみであり、詳細な点まで検索者が入力する必要があって使いにくい。
- ② また記載データもばらばらで理解しにくい。必要最低限の情報しか公開していないように

も見える。また、原子力の専門家以外には内容を把握しにくい。

- ③ NUCIA を見る側からの欠点としてトラブル原因がわかりにくいし、検索しにくい。原因分類を表にしておき、これをスタート点にざっと検索できる機能があればよい。
- ④ 記載情報がわかりにくいのはデータの書き手が問題を起こした当事者に近い人間が記載のためだろうか。情報の隠蔽までは行かなくても表現を緩和するなど曖昧にする心理が働くのではないか。
- ⑤ リンク集などがポータルサイトの殆どを占めている。NUCIA 独自のコンテンツを作成するなどオリジナリティのあるポータルサイトの構築をめざしたらどうか？

要するに、事故トラブルデータを社会一般に公開して今後活かすという趣旨からは、NUCIA はもっと利用しやすいものに改善する努力が必要である。

本プロジェクトでは、NUCIA の公開情報を電力大でデータマイニング分析し、組織要因等の事故・トラブル情報の背景要因の有無を観察する方法についても検討することとしている。現在、NUCIA のデータベースの維持管理には、原子力技術協会が当たっているが、それ以外に電力各社においては NUCIA 用に人員を貼り付けてデータ収集登録等に日常的に当たっていると思われる。これらの人々が社会に原子力発電の安全性を向上するためのリスクコミュニケーションとしてその重要性を認識し、仕事へのモチベーションを維持向上するために、つまり、NUCIA にかかわる人々が「学習する組織」に変容していってもらうために、本プロジェクトの取り組みを原子力技術協会や電力各社のチームに日ごろ公開し、社会との交流を働きかけることも課題と考えている。